Dr.コープの自動車保険

知っているようで知らない、自動車保険のアレコレ教えて！

予期せぬ交通事故に備えて、ぜひ入っておきたい自動車保険。でも、実際に交通事故に遭って、戸惑うなんて事は珍しくありません。そこでDr.コープが、そんな自動車保険を取り巻くトラブルと具体的な対処の仕方をアドバイス！

もし、交通事故を起こしたら、あなたはどうする？

今回は、自動車保険について、お話ししようかのう。みなさんの中には毎日車を運転する、という方も珍しくないと思うが、実際に重大な事故を起こしてしまった、あるいは大変な事故に遭ってしまったという方はそう多くはないと思う。だからこそ、万一の際、その対処に戸惑うのも致し方ないものじゃ。しかし!! 問題の解決をスムーズに行なうためにも、事故の対処法を知っておく事は大切な事なんじゃ。

この場合の重大な事故というのは、もちろん人身事故の事を指している。そもそも人身事故とは、車を運転中に交通事故を起こし、事故の相手が死亡、もしくは傷害(ケガ)を負って入院や通院などの治療を必要とした場合をいうんじゃ。人的な被害がない場合の交通事故や、相手車がいない事故(自損事故)は含まれない。

では、具体的にどう対処すればいいのか、図にまとめてみたのでご参照いただきたい。図①

基本的には、事故が起きたらまず負傷者の救助をする事。そして交通渋滞を最小限に抑えるため車を速やかに移動させる事じゃ。この際に注意したいのは、事故の状況をしっかりと把握しておく事。もちろん、救急車や警察への連絡は言うまでもない。保険を使う場合、事故証明」が必要になるので、警察は事故の大小にかかわらず連絡しなければならん。相手を確認し、その後、保険会社や代理店などに連絡というのが、おおまかな流れじゃ。保険会社や代理店に連絡をすれば必要なアドバイスをしてもらえるじゃろう。もちろん、小さな交通事故や自損事故の場合も警察への連絡や、場合によっては代理店や、保険会社にもすぐ連絡をとる事が必要じゃ。

図① 事故発生から解決までの基本的な流れ

出典:株式会社フルスピード「Auto5 クルマのポータルサイト」より

莫大な損害賠償。人の命には値段がある？

平成15年の交通白書によれば、交通事故発生件数は106万7544人、24時間以内の死者数は7702人じゃった。ここで問題になるのが、交通事故による被害の賠償額が一体いくらになるのかという事じゃ。言い換えれば、人の命の値段という事になる。たとえば、交通事故による対人賠償の過去最高額判決事例を見てみると、約3億円に上る。その他にも2億円を超える高額事例が数多く出されている。表①

では、この命の値段はどのように導き出されるのじゃろうか？ 司法用語では逸失利益というが、基本的には生涯を通じて労働により得ていたはずの収入(勤労所得)から、衣食住などの生活に必要な費用を差し引いて求められる。賃金の推定は、厚生労働省が発表する賃金センサス(賃金構造基本統計)に基づくものとされている。算定には、全年令の平均収入から算出するライプニッツ方式が使われるが、計算式が複雑なのでここでは省略させてもらおう。

ただ、こうして導き出された命の値段じゃが、男女間の格差については、賃金センサスで年間200万円程度となっている賃金格差を反映して、逸失利益でも1000万円近い格差が出る場合もあるんじゃ。憲法に定める男女平等、法の下の平等に反する深刻な問題として、現在も様々な議論がある。

表① 対人賠償における過去の高額判決事例

認定総損害額	裁判所	判決年月日	事故年月日	被害者性年令	被害者職業	被害態様
2億9,736万円	東京地裁	1995.3.30	1984.7.18	男40才	会社役員	後遺障害
2億6,562万円	大阪地裁	1998.11.30	1992.10.27	男19才	大学浪人	後遺障害
2億6,548万円	東京地裁	1998.3.19	1993.2.8	男20才	大学生	後遺障害
2億5,721万円	福岡地裁	1999.4.27	1994.11.23	男22才	自衛官	後遺障害
2億5,050万円	東京高裁	1996.10.22	1990.10.7	男20才	専門学校生	後遺障害

※認定総損害額とは被害者の損害額（弁護士費用を含む）をいい、被害者の過失相当額あるいは自賠責保険などで支払われた金額を控除する前の金額である。
※認定総損害額は、1,000円以下切り捨てである。
※上位5位を抜粋。
出典:社団法人 日本損害保険協会「日本の損害保険ーファクトブック2001」より

よくあるトラブル。その対処法は？

前項で解説した重大な事故を起こした時、人としての責任を果たすためにも自動車保険は欠かせないという事を肝に命じておこう。ところが、いくら保険に入っていても、保険金が支払われない場合もある。それは、無免許・酒酔い・麻薬などによる運転によって生じた事故の場合「対人・対物は、本人・父母・配偶者・子に対する事故の場合」などじゃ。当然と言えば当然じゃが、くれぐれも注意するように心掛ける事が大切じゃ。

このような重大な事故ばかりでなく、毎日運転していれば、大小取り混ぜて様々なトラブルに見舞われる事じゃろう。自動車保険にまつわるトラブルの中でも、特に多い事例を紹介しよう。たとえば、年令条件の変更をしないで、子どもが運転して事故を起こした」とか「示談交渉でもめて、なかなか解決しない」とか「車両保険に入っていたのに保障されない」というものじゃ。

しかし、これらのトラブルにはそのための対処をしていれば何の問題もなかったというものが多い。具体的にどうすれば良かったのかについては、わかりやすくまとめてみたので、それを参考にしてほしい。表②

表② トラブルにならないために

事例1	年令条件を**変更せずに**子どもが運転し、事故を起こしてしまった。	**あらかじめ年令条件を変更しておくのが基本**だが、「子ども特約」を付けておくとこうした場合にも対処できる。
事例2	車両保険に加入していたのに、**自損事故に対して**何も保障してくれない。	よくあるのがエコノミー車両保険（車対車＋A）に加入している場合。このタイプは車対車が基本なので、相手車がいない場合は保障されない。**安いからといって選ばず、自身のニーズにあわせて選ぼう。**
事例3	**満期管理されていなくて**、保険が切れ、無事故割引を失った。	通常保険が切れる1カ月くらい前に代理店などから契約者へその旨を伝える案内が届く。しかし、**もしかしてと思う人は一度保険会社に連絡し、確認してみる**事をおすすめする。もちろん、保険が切れてしまった後の事故は、保障されない。
事例4	**示談交渉でもめて**、なかなか解決しない。	相手にも責任があるのになかなかそれを認めようとしないなど、示談交渉は難しいもの。基本的には保険会社が対処してくれるものだが、どうしても解決が難しい場合は**「紛争トラブル解決センター」**など第三者機関を利用するという手もある。

交通事故以外にも、カーライフには色々ある

毎日のカーライフには、交通事故以外にも様々な事が起こるものじゃ。そんな時にも切り離して考える事ができないのが自動車保険。そこでひょうとしたらあなたにも起こるかもしれない、色々な場面を想定した予備知識をご紹介しよう。

ちょっとこすったら？

車両保険に加入していれば、ちょうとこすった場合にも免責自己負担額を除いて保険は支払われる。しかし、支払われた金額にかかわらず保険を使う事は「保険事故」であり、更新後の等級に影響するものじゃ。損害額に応じて保険を使うか自己負担するかを決めよう。

車を買い換えたら？

契約者の通知義務なので、契約先の代理店もしくは保険会社に知らせなければならん。車両保険に加入している場合は保険金額を見直す必要もある。しかし、新車に換わったからといって等級が上がったり下がったりする事はないんじゃ。だから、契約者に変更がなければそれまでの等級がそのまま引き継がれるんじゃ。

親から車を譲り受けたら？

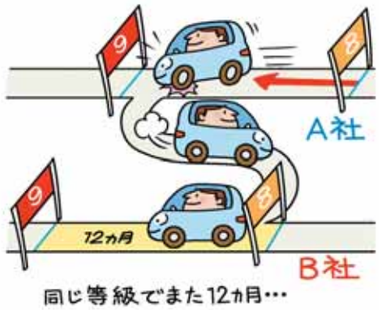
一定の条件を満たせば、親など契約者の無事故割引を継承できる場合がある。継承できる条件など具体的な取り扱いについては、各保険会社の基準によるので、保険会社に問い合わせてみよう。

再び保険に加入する時は？

車を廃車、譲渡などで手放す時や、あるいは留学、海外出張などで車を使わなくなる時などは、代理店もしくは保険会社に申し出て「中断証明書」を発行してもらおう。再び車を所有したり、使用する際に、一定の条件を満たしていれば以前の条件や割引を引き継いで保険に加入する事ができるんじゃ。

満期前に保険会社を変える時は？

保険会社を変えてもそれまでの等級はそのまま適用されるが、ただし、一度保険を解約して新しく加入し直すので保険期間は新しく設定される事になる。たとえば、現在8等級で、保険期間の満期まであと2カ月の場合、8等級はそのままじゃが、9等級に上がるまでには、新しく加入した日よりさらに12カ月間無事故でいなければならないという事になるんじゃ。



引っ越しする時は？

契約者の通知義務として、契約している代理店もしくは保険会社に新住所を知らせなければならん。また、リスク細分型保険で「地域料率」を適用している場合は、移転先によっては保険料が変更になる事もある。

海外に移住する時は？

現在、日本国内で取り扱っている自動車保険は、一般的に国内で発生するリスクをカバーする事を前提にしておるんじゃ。このため、海外で車を使用する場合は、現地の保険会社で契約する必要がある。

だから、自動車保険だって、かしこく選んでほしい！

それでは、どんな自動車保険を選んだら良いのじゃろう？ 自動車保険選びの際にまず考える事は、コスト（保険料の安さ）を重視するか、内容（補償内容やサービスの充実度）を重視するかを決める事。自分のライフスタイルから自動車保険に何を求めているのかを考え、「保険料を安くする事」を重視したいのか、「万一の時の安心」を重視したいのかを選択する事じゃ。

保険料を安くする事を重視したい場合

保険料を安くしたいのなら、なんといってもまずダイレクト通販系保険会社の「リスク細分型保険」を選ぶといいじゃろう。年令、使用目的、走行距離などの条件によっては、保険料を安くできる可能性がある。しかし、保険料が安くなる条件は保険会社によってまちまち。従って、複数の保険会社の中から、自分の条件で一番保険料が安くなる保険会社をみつけなければならん。たくさんの保険会社に個別に見積りを取るのは大変じゃが、インターネットなどを利用すれば一度に複数の保険会社の見積りを取る事ができる。

万一の時の安心を重視したい場合

まず補償内容についてじゃが、事故の相手方に対する賠償だけでなく「人身傷害補償保険」を付けて、自分自身や家族に対する補償を準備する事が重要なポイントじゃ。保険料については若干割高になるが、自動車事故により本人や家族が死亡したり後遺障害または傷害を被った時には、過失割合にかかわらず本人の過失分も含めて補償されるので、万一の際に支払われる保険金の差は非常に大きなものになる。

また事故時のサービスも十分考慮する必要がある。いつ、どこで起こるかわからないのが交通事故じゃ。それだけに24時間・365日体制で事故に対応するのは、いまや保険業界の常識。その他にも、事故時に相談に乗ってくれる身近な代理店が必要かどうかを考慮する事も重要じゃ。

かしこい自動車保険選びのためには、このような観点からまずは各保険会社の見積りを取り、各社の補償内容、サービスを比較する事から始める事じゃ。

コラム 交通事故の治療にも、健康保険は使える？

交通事故の治療に「健康保険は使えない」とよく言われるが、実際には**使う事ができる**んじゃ。治療を受ける病院から健康保険を利用しないように言われる場合もあるが、厚生労働省の通達によって健康保険は問題なく利用できる事になっておる。健康保険を使うメリットは色々あるが、その一つは自分の過失割合が大きい場合。過失割合が大きいと、治療費も過失相殺されて自己負担分が大きくなるからじゃ。

また、相手が任意の自動車保険に加入していない（無保険）の場合には、自賠責保険からの補償しか受けられない可能性があるので、事故による支出を低くするという効果がある。この場合、自賠責保険の補償金額を上回った金額は加害者に請求するが、任意保険に加入していない人から賠償金を引き出すのは大変じゃ。余分な苦労をしなくても済むんじゃったら、健康保険を使ったほうがいいじゃろう？